

上越市議会議員 宮崎朋子

— ミヤザキトモコ ギカイツウシン —

議会通信

◆定例会審議等

◆宮崎ともこの公約から

～若年女性が住みやすいまちを！～

◆調査研究

～当市の可能性 脱炭素社会を目指して～

◆地域の今とこれから

～地域要望、着々と～ ～湧水とその影響～

◆議員活動奮闘記

～20という節目に思う～



Vol,20

発行月 2025年8月

発行者/上越市議会議員 宮崎朋子

表紙の色「とうもろこし色」
みずみずしさと実り豊かな夏の色。

所属

- 会派 つなぐ 代表
- 厚生常任委員会
- 議会運営委員会副委員長
- 災害対策特別委員会
- 県道新井柿崎線整備促進議員連盟副会長
- 保倉川放水路整備促進議員連盟
- 日韓親善上越市議会議員連盟
- 防災士議連
- 三和区国県道整備促進期成同盟会
- 桑曽根川・錦川改修促進期成同盟会
- 飯山・牧間県道昇格並びに整備促進期成同盟会

市民のために果敢
に取り組めます！

今と未来のための
福祉政策を推進！

新しい議会運営に
取り組めます！

事務所

〒943-0231
新潟県上越市三和区鴨井471
携帯 090-3545-6087
✉ q8s-3n8h@joetsu.ne.jp
FAX 025-333-0424

動く！しゃべる！
動画配信中です！



パソコン、携帯、スマホからは是非ご覧ください。

YouTube B面ともこ



宮崎朋子 議員活動 奮闘記

～20という節目に思う～

今年上越市は「アニバーサリーイヤー」。当市が合併して20年。未来へ向かうためには、今一度この節目を考え、検証しておく必要があると考えます。宮崎ともこの議会通信も、おかげさまで20号を迎えました。市の事業の1つ1つが、議会でどう議論され、市民のための良いことにどう繋がっているか？そこだけはブレずにお伝えしてまいります。これまでの全号は、宮崎ともこ後援会のホームページをご覧ください。→<https://miyazakitomoko.jp>



活動記録 (5/11～8/10)

- 市内行事参加 (三和区振興会総会/三和区いきいき輪投げ大会/三和方面隊連合演習/上越市消防点検/さんわ祭り)
- 市民要望の調査、立会等 (河川・道路・農業・観光・鳥獣被害・湧水対策 他)
- 調査研究 (道路整備/環境/河川/観光/空き家対策/公共交通/男女共同参画 他)
- 地域協議会傍聴 (板倉区・三和区・金谷地区)
- 三和区国県道・河川合同要望会/県道新井柿崎線議員連盟要望会
- 代表者会議 (2回) ● 議会運営委員会 (3回)
- 議会改革ハラスメント分科会 (4回)
- 議会改革推進特別委員会 (3回)
- 厚生常任委員会管内視察研修 (県立柿崎病院/県立中央病院/上越市クリーンセンター)
- 障害福祉団体との意見交換 (8月)
- 議員勉強会 (日本の食料・農業・農村問題について)
- 議員連盟総会 (防災土/上越食料農業農村/保倉川放水路整備促進/県道新井柿崎線整備促進)
- 災害対策特別委員会意見交換会 (直江津地区)
- 視察 (災害対策特別委員会) ● 政策研究会 (3回)
- 長野・上越市議会研修 (7月)
- 議会通信発刊 (5月) ● 議会報告会
- 6月定例会 (6月3日～6月25日)
- 厚生常任委員会 (6月4日～17日) ● 委員会傍聴
- 市内湧水状況視察 (農政建設委員会 2回) 他



日頃の訓練、ご努力に感謝します。
今年もご挨拶をさせていただきました。
(三和方面隊連合演習)

● 9月議会の予定
9月2日(火)～9月26日(金)

議会傍聴に是非お越しください！

地域の今とこれから

◆地域要望、着々と◆ 今後も地域のお声を聞いてまいります！



交通量が多い上、橋から信号までの距離が短い道路。これまで振動や飛石の被害の声があった (三和区)



道路整備により、輪だちも無くなり車の騒音も軽減されたとお声も。



◆湧水とその影響



川底が見える飯田川
(7月)

皆様に、節水のご協力をお願いして約1ヶ月。市では、給水スポットの増設、給水車の応援、消雪用井戸の活用や配管工事等あらゆる手段を講じておりますが、未だ予断を許さない状況です。帰省客を含む市民生活、繁忙期の事業者、農作物への影響など、緊急事態への対策と、今後の支援を議会一丸となって取り組んでまいります。



交通量の多い住宅街。長年の道路修繕や振動対策への声がよく工事に繋がった。
(藤塚地内)

定例会審議の結果

- 6月定例会は、今まで以上に国の子ども達を取り巻く環境や制度の拡充などがメインとなりました。
- 一方で、当市においては相次ぐ学校や公共施設においての事故が起きました。議会では児童の心身のケアと、今後二度と起きないように、その安全体制の強化を強く要望いたしました。人的ミスは注意喚起の徹底。我々議員も肝に銘じ活動してまいります。
- 7月に発生した中川市長の失言。相手の自治体及び市民の皆様に対しての謝罪はもとより、上越市の市政運営や市民生活、産業や観光などに大きな影響があると考え、7月14日付で上越市議会は市長に対し辞職を申し入れました。湯水対策が急がれる中、市長としての自覚の欠如とその責任は重いと考えます。

厚生常任委員会

- ①国の税制改正に伴い、上越市市税条例の一部改正として、大学生年代の子等に関する特別控除の創設を行なった。（条件あり）
- ②今年2月に発生したクリーンセンターにおける変圧器の落雷被害と代替変圧器の調査、売電収入の減額等。（106150千円）これによるゴミ焼却に關する市民影響は無い。当委員会では6月19日に現場を視察した。
- ③追加補正予算（92,707千円）エネルギー、物価高騰対策として国からの補正予算に市の財源を追加し、子育て世帯に対する生活支援給付金を実施（児童手当受給世帯、均等割世帯が対象。子ども1人当たり25000円。）（7月～）



農政建設委員会

- ①追加議案 住宅リフォーム促進事業（子育て・若者夫婦世帯支援枠）（1000万円）
報告案件
* 4月に発生した県営高田発電所水圧管路破断事故について。→水圧管の修復には時間を要することから、別の水路を経由して城山浄水場への通水を開始。（7月10日～）加えて、他のダムからの取水も開始したが、水位は20%を切り、危機的状況。→7月15日～節水対象区域へ節水要請（約お風呂1杯分）や給水スポット等湯水対策を実施。
- * 湯水・高温による農作物等の被害が懸念されるため、緊急支援を実施中。（7月～）
- * 路面下の空洞調査の結果についての報告
市内の主要24路線、延べ約52kmについて、直ちに路面の陥没に至る可能性がある空洞は確認されなかった。（7月4日付）



湯水状況の説明を聞く。
（7月 正善寺ダム）

●議案26件を審議

一般会計予算	102,567,754,000円
（5月専決分）	63,499,000円
6月補正予算	681,328,000円
（追加議案分）	102,707,000円
計	103,415,288,000円

（ ）は補正額
（6月定例会より抜粋）

文教経済常任委員会

- ①工事請負契約の締結
* ふれあいグラウンド人工芝張替え工事
* 春日小学校放課後児童クラブ建設工事
長年要望もあり、年度内の工事完了を目指す。

報告案件

相次いだ事故の報告と検証、今後の対応について委員会では、児童のケアや保護者への情報提供体制、組織としての管理体制、職務役割の徹底について質疑がなされた。

- 1、蛍光管破損による破片の飛散及び給食混入事故
- 2、児童の漂白剤入り水道水誤飲事故
- 3、大島庄屋の家における毒素成分を含むこんにゃく芋の食事への誤使用について

総務常任委員会

- ①定額減税補足給付金事業（510624千円）
対象納税義務者数16700人。申請書類を随時発送し、8月下旬頃より振込開始予定。
- ②ふるさと応援事業（3593千円）
ふるさと納税をもっと推進するために、国の制度（人材活用）を使い、FCサイトに力を入れる。

所管事務調査

上越市適正配置計画の見直しについて後期計画（令和8年度）としていたものを、第7次総合計画など、市の主要計画のスケジュールと合わせることにした。また、物価高騰などを受けた、指定管理の利用料についての見直しを行う。

能登半島地震

珠州市の被害状況を知る - 災害対策特別委員会視察 -



7月、私たちは珠州市の泉谷市長、直々に当時の発災状況や災害対策についてご説明をいただきました。高齢化率50%以上の地域でも、日ごろの避難訓練の効果があったとのこと。やはり自主防災は重要と感じました。沖沿いは、傾いた電柱や瓦屋根の住宅などがそのままで、復興にはまだまだ時間と莫大な費用が必要と感ずります。また、緊急時には議場が災害対策本部になるなど、経験を活かした防災減災対策がとられています。（石川県珠州市内）

なぜ、若年女性流出が課題なのか？

バランスを欠いた人口構造になる。

教育・子育て、産業、そして防災対策など女性の声が政策に反映されなくなる。

若年層（特に女性）が少ないまちは、地域の維持や市の財政にも大きな影響が出る。

人口減少と人口流出の悪循環

若年女性がまちに魅力や生きがいを持ってないと、さらに転出が増え、転入も少なくなり、人口減少の悪循環に陥ってしまう可能性がある。

女性であり議員である私が考える対策

女性の生き方は1つじゃない！ ひとくくりにしない政策を！

単身、既婚、経営者、起業家、フリーランス、離職中、介護中など私たちの周りには一人として同じ境遇の女性はいません。まずは「こういう生き方や選択肢があるんだ！」と若年女性に思ってもらえる場面や事業が必要。

周りからの偏見をなくそう！

女性に対する偏見や思い込み（ステレオタイプ）は、世代によっても違い、それは女性自身が持っている場合もあります。若年層が出ていく理由の1つにも挙げられる、しがらみや偏見について職場や地域、組織が気づき、考えていく必要があります。

この先の不安を軽減できる環境整備を！

女性向け定住促進住宅、起業支援、気軽に行ける場所、治安の良いまちづくりなど、老後も含めた仕事やお金、住まいを考える機会や環境整備が必要。

宮崎ともこの公約 若年女性が住みやすいまちを

当市の人口減少は、この10年で加速しています。中でも、私自身は特に「若年女性の市外流出」について危機感を感じて調査研究を続けてまいりました。今後は、若年層（特に女性）が暮らしたいと思ってもらえるまちにしなければ、当市の未来は望めないと考えています。国も県も、ようやくここに着眼しはじめる、東北圏が力を入れていますが、新潟県及び当市においては、まだまだ特化した政策が少ないと感じています。



- 上越市の現状 -

- * 若年女性（19～29歳）は7043人。人口比3.9%。実に100人に3人しかいない。
- * 18歳～0歳の女子は男子より約900人少ない。（R7年4月時点）
- * 転入－転出（0歳～29歳）では、約1700人－約1900人＝－約200人/年。特に女性の転出増。（新潟県人口移動調査）
- * 30代後半女性未婚率は29.7%。
- * 仕事は男女共通で、建設・製造・医療・福祉が多く、情報通信や金融・サービス等が少ない。（上越市の人口動態についてより）

当市の可能性

脱炭素社会を目指して



- 当市は、ゼロカーボンシティ（2050年までに温室効果ガス排出量ゼロを目指す）を宣言しています。
- 市では、公共施設の省エネ化や太陽光発電（16施設）小水力発電やマイクロ小水力発電（2ヶ所）汚泥リサイクルパークでのバイオガス利用、そして事業者支援、市民の省エネ住宅導入の啓発などに取り組んでいます。それについては、私も委員会で幾度も質問してまいりました。
- この7月「上越脱炭素経済ネットワーク勉強会」に参加しました。あらためて環境省や県、そして市内企業の事例などを学び、当市の可能性はまだあると実感した次第です。
- 私の公約の「きれいなまちで稼ぐ」は、地域課題を循環型で解決していくこうとするもの。その点でも、脱炭素の視点は欠かせません。今後も調査研究を重ねてまいります。



課題と可能性

市民に良いこと

企業に良いこと

- ① 新規商品開発や販路拡大の可能性。
 - ② 脱炭素素材の導入でコスト削減。
 - ③ 社員のモチベーションや企業イメージのアップにつながる。
 - ④ 断熱住宅や省エネ家電導入などで、光熱費の軽減につながる。
 - ⑤ 緑化活動などで健康に良い環境になる。
 - ⑥ 蓄電池などの導入で災害時にも安心。
- 大事なよね。とみんなが思っているけれど、そのメリットがわかりにくいことや、導入コストなどの課題がある。
- 二酸化炭素の削減や吸収量などを国がクレジットとして認証し、資金循環でできる制度（J-クレジット）の活用は、当市の農林水産業や地域保全にも有効と考える。当市ではまだ少ないが、今後は自治体の情報発信や、取り組みやすい環境づくりが必要。